

1. 単元名(主題) 「専門的課題研究における各自の研究活動」

～研究テーマの設定、先行研究の調査とリサーチクエスションの導出～

2. 本時の主題の概要および設定理由

前時において、生徒は各自の学問系統および学問分野(ゼミ・ラボ)ごとに指定された教室へ移動し、興味・関心に基づいた暫定的なチーム編成や研究テーマの選定を開始した。

本時では、高校1年生後期から高校2年生の最終発表まで続く本格的な「専門的課題研究」の確固たる基盤を構築することを目的に、探究のプロセスを一段階具体化させる。具体的には、まず次回に予定されている「研究内容共有発表会」に向けたスライド準備を進めさせる。この発表会は、各自の興味関心と真に合致するチームであるか、現在の編成で長期間の探究を継続できるかをチーム内で再考・最終調整するための極めて重要なプロセスである。さらに、チーム(または個人)の編成が確定したグループから、研究活動の指針となる『研究計画書兼報告書』の作成を開始させる。学術的な「調べ学習」とどまらない、解決すべき本質的な問いである「リサーチクエスション(RQ)」を設定し、それに対する「仮説」の立案および具体的な検証方法(実験・調査等)を検討させる。この一連の論理的探究プロセスの初期段階を生徒自身の主体的な協働ワークによって具体化させ、研究計画をより現実的かつ深みのあるものに昇華させるために、本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **研究計画の立案と見通し:** 専門的課題研究の全体像と『研究計画書兼報告書』作成の意義を理解し、チーム内(または個人)で研究テーマの設定や先行研究の調査、および計画書の初期作成に主体的に取り組むことができる。
- 2) **リサーチクエスションの導出と仮説設定:** 先行研究調査を踏まえ、漠然とした疑問から検証可能な「リサーチクエスション(RQ)」を導出し、それに対する「仮説」や具体的な検証・調査方法について論理的に思考・整理することができる。
- 3) **チームの合意形成と協働:** 次回の共有発表会に向け、自チームの現時点の研究計画や方向性を整理し、共有用スライドを共同編集しながら、チームメンバー間での合意形成を図ることができる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第17回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用ワークシート: 『探究ノート』
- 共同編集用ファイル: 『研究計画書兼報告書』、『研究内容共有会スライド』
- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『専門的課題研究チーム編成表』(各教室用シート)
『SS I 分野&担当教員一覧』
- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) 出席確認と授業環境の確認 - 学問分野ごとに指定された教室に入室し、出席確認を受ける。座席は自由とする。 - 個人端末の準備を整え、Google Classroomから『第17回授業スライド(PDF版)』を表示する。	- ホームルーム別の出席確認を効率的に行う。 - 座席は自由とするが、出欠の不一致がないよう名票と照合する。
2分	(2) 専門的課題研究の位置づけとプロセスの確認 - スライドを見ながら、専門的課題研究全体の流れ(高1中間・高2中間・高2最終発表へとつながるプロセス)を再確認する。 - チーム編成の確定、研究テーマ設定、先行研究の調査、RQの設定、仮説立案へと続く今後のステップについて、本時の活動の位置づけを把握する。	- スライドを用いて、本探究活動がより高次のリサーチクエスション(RQ)を目指すものであることを提示し、活動への意欲を高める。 - 未だチームが決まっていない生徒、あるいは変更を希望する生徒に対しては、本時の早い段階で個別に支援に入り、チーム調整を行うことを周知する。
4分	(3) 次回「研究内容共有発表会」の説明と準備理解 - 次回授業の冒頭で実施される「各チーム1分間の発表共有会」の概要と目的を理解する。 『専門的課題研究チーム編成表』で自チームの番号を確認し、教室ごとに配信されている『研究内容共有会スライド』を開く。 - 現時点での「仮の研究テーマ」「キーワード」「参考のできそうな文献・先行研究」「RQへのつながり」などをスライドにまとめる作業の見通しを持つ。	- 発表会は、他チームの探究内容を共有し、各自の興味関心と真に合致しているチームか、現在の編成で1年半継続できるかを再考・調整するための機会であることを説明する。 - 次回授業でチーム編成を最終決定することを周知する。 - 物理、化学、生物のラボ・ゼミ教室では、この共有発表会の実施および本スライドの作成は行わないため、対象の生徒へはその旨を伝え、速やかに具体的な研究活動へ進むよう指示する。
3分	(4) 本日の活動内容および『研究計画書兼報告書』作成手順の説明 - 個人用ワークシート『探究ノート』を開き、「①本日の予定・目標」を記入する。 - チームがほぼ固まったグループから、代表者1名が共有フォルダにアクセスし、原本ドキュメントを自身のチーム番号にリネームしてコピーを作成し、共同編集の準備を整える。	『研究計画書兼報告書』のコピー作成手順(指定フォルダ内原本のコピー、チーム番号へのリネーム)を実演または詳しく説明し、各チーム1名の代表者が速やかに作業を行えるよう支援する。 『探究ノート』が個人の学びを記録するポートフォリオであることを説明し、授業開始時の目標設定と、終了5分前のリフレクション記入を全員に徹底するよう指導する。
37分	(5) チーム(個別)課題探究ワークの実践 チーム未確定者: 教員と面談しながら本日中に所属チーム、または個人研究を行うことを決定する。 チーム確定者: 共同で以下のステップを進める。 - 自身の興味関心、社会的・学術的課題から「研究テーマ」を具体化する。 - 関連する「先行研究(文献、論文、インターネット等)」を調査し、内容を深める。	- 担当教員は手元の端末で『専門的課題研究チーム編成表』を立ち上げ、本日のチームの確定・変更情報をリアルタイムで管理・入力する。 - 教員間で手分けをして各チームへ机間巡視・対話的な面談を行い、テーマ設定や先行研究の調べ方について個別のアドバイスを送る。 - 問いが単なる「調べ学習」にとどまっているチームに対しては、「なぜそうなるのか」「どのように解決すればよいか」を問いかけるなどして、問いの発展(RQへの昇華)を促す。言葉の定義が曖昧な場合は言葉の定義づけを指導する。

	● 漠然とした疑問を「問い」の形で表し、さらに多面的に検証して本質的な「リサーチクエスチョン(RQ)」に昇華させ、言葉の定義を具体化(いつ、どこで、だれが等)する。 ● RQに対する「仮説(仮の答え)」を立て、検証方法を検討し、『研究計画書兼報告書』の該当箇所に整理・入力する。 ● 共有発表会を実施する教室のチームは、並行して『研究内容共有会スライド』の入力作成を行う。	● 欠席者がいるチームや、活動への参画に難航している生徒がいるチームには、特に対話を促す個別サポートを行う。
2分	(6) 本時の振り返りと今後の見通し ● 本時の活動内容を振り返り、個人端末から『探究ノート』の活動記録欄に記入する。 ● 次回以降、本格的に研究計画の策定に移ることを確認し、ホームルーム教室への移動準備を行う。	● 『探究ノート』の記入が全員完了しているか確認する。 ● 次回の授業開始時に各チーム1分で現時点の研究計画について発表してもらうことを再確認させ、本日の進捗に基づき、必要に応じてチーム内で準備を進めるよう指導する。